



Informatica®
10.5.7

マッピング仕様の入門ガイド

Informatica マッピング仕様の入門ガイド

10.5.7

2024 年 11 月

© 著作権 Informatica LLC 2009, 2025

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ（**および本マニュアルに記載されたその他のすべての Informatica が所有する商標**）は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（<https://www.informatica.com/trademarks.html>）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2025-02-09

目次

序文	4
Informatica のリソース.....	4
Informatica Network.....	4
Informatica ナレッジベース.....	4
Informatica マニュアル.....	4
Informatica 製品可用性マトリックス.....	5
Informatica Velocity.....	5
Informatica Marketplace.....	5
Informatica グローバルカスタマサポート.....	5
 第 1 章 : Informatica Analyst の基本操作	6
Informatica Analyst について.....	6
Informatica Analyst のチュートリアル.....	6
チュートリアルの内容.....	7
 第 2 章 : レッスン 1. Informatica Analyst の設定	8
Informatica Analyst の設定の概要.....	8
タスク 1. Informatica Analyst へのログイン.....	9
タスク 2. プロジェクトの作成.....	9
タスク 3. フォルダーの作成.....	10
Informatica Analyst の設定のまとめ.....	10
 第 3 章 : レッスン 2. データオブジェクトの作成	11
データオブジェクトの作成の概要.....	11
タスク 1. Customers フラットファイルデータオブジェクトの作成.....	12
タスク 2. Accounts フラットファイルデータオブジェクトの作成.....	13
タスク 3. Customer_Accounts テーブルデータオブジェクトの作成.....	13
タスク 4. データオブジェクトのプレビュー.....	14
データオブジェクトの作成のまとめ.....	14
 第 4 章 : レッスン 3: マッピング仕様の作成	15
マッピング仕様の概要.....	15
タスク 1. マッピング仕様の作成.....	16
タスク 2. Customer_Accounts ターゲットの編集.....	16
タスク 3. 簡易フィルタの追加.....	17
タスク 4. ルールの作成.....	17
タスク 5. ターゲットへのマッピング仕様の結果のロード.....	18
マッピング仕様の作成のまとめ.....	18
 索引	19

序文

『Informatica®マッピング仕様の入門ガイド』の手順に従って、Informatica Analyst を使用してデータオブジェクトおよびマッピング仕様を作成する方法を学びます。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network を介してグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト（<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>）を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスして eSupport オプションを選択します。

第 1 章

Informatica Analyst の基本操作

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica Analyst について, 6 ページ](#)
- [Informatica Analyst のチュートリアル, 6 ページ](#)

Informatica Analyst について

Informatica Analyst は Web ベースのアプリケーションクライアントです。データ統合アナリストはこのツールを使用して、企業内のデータ統合タスクを実行できます。

アナリストと開発者は、Analyst ツールをデータドリブンコラボレーションに使用します。Analyst ツールを使用してマッピング仕様を作成し、ソースのデータを変換してターゲットに移動するビジネスロジックを定義します。

Informatica Analyst のチュートリアル

このチュートリアルでは、Analyst ツールにログインし、プロジェクトとフォルダー、データオブジェクト、およびマッピング仕様を作成します。

次の表に、このチュートリアルで行うレッスンを示します。

レッスン	説明
レッスン 1. Informatica Analyst の設定	Analyst ツールにログインし、チュートリアルのレッスン用のプロジェクトとフォルダーを作成します。
レッスン 2. データオブジェクトの作成	フラットファイルとテーブルをデータオブジェクトとしてインポートし、それらのデータをプレビューします。
レッスン 3. マッピング仕様の作成	マッピング仕様を作成し、ソースのデータを変換してターゲットに移動することでターゲットテーブルにデータを取り込むビジネスロジックを開発します。

チュートリアルの内容

HypoStores Corporation は、本社がボストンで、いくつかの州に店舗を展開する全米規模の小売企業です。全米の店舗の業務データを本社のデータストアと定期的に統合しています。最近、ロサンゼルスに店舗を開店しました。

本社には、すべてのコンポジットおよび BI アプリケーションに共通のデータサービス層を提供する、管理者、開発者、およびアーキテクトから成る中央の ICC チームがあります。BI アプリケーションには、請求やマーケティングに使用されるマスター顧客データファイルが含まれる CRM システムが組み込まれています。

HypoStores Corporation では、ボストンとロサンゼルスとデータセットを統合したいと考えています。そのため、マッピング仕様を作成し、ソースのデータを変換してターゲットに移動するビジネスロジックを開発することにしました。そうすれば、ターゲットのデータを使用してレポートを実行することも可能になります。

第 2 章

レッスン 1. Informatica Analyst の設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica Analyst の設定の概要, 8 ページ](#)
- [タスク 1. Informatica Analyst へのログイン, 9 ページ](#)
- [タスク 2. プロジェクトの作成, 9 ページ](#)
- [タスク 3. フォルダーの作成, 10 ページ](#)
- [Informatica Analyst の設定のまとめ, 10 ページ](#)

Informatica Analyst の設定の概要

このチュートリアルレッスンを開始する前に、Analyst ツールを設定する必要があります。Analyst ツールを設定するには、Analyst ツールにログインし、作業内容を格納するプロジェクトおよびフォルダーを作成します。

Informatica ドメインは、Informatica 環境を定義するノードとサービスの集合です。ドメイン内のサービスとして、アナリストサービスとモデルリポジトリサービスがあります。アナリストサービスは Analyst ツールを実行するサービスで、モデルリポジトリサービスはモデルリポジトリを管理するサービスです。Analyst ツールでの作業で作成したアセットは、モデルリポジトリに格納されます。

Analyst ツールでアセットを作成する前に、プロジェクトを作成する必要があります。プロジェクトには、Analyst ツールのアセットが含まれます。プロジェクトには、同じビジネス要件の一部であるデータオブジェクトなどの関連するアセットを格納するフォルダーも含まれます。

目標

このレッスンでは、以下の作業を完了します。

- Analyst ツールにログインする。
- Analyst ツールで作成したアセットを格納するプロジェクトを作成する。
- 関連するアセットを格納するプロジェクト内にフォルダーを作成する。

要件

このレッスンを開始する前に、次の要件を確認してください。

- 管理者が Administrator ツールでモデルリポジトリサービスとアナリストサービスの設定を完了している。

- Analyst ツールのホスト名とポート番号がわかっている。
- アナリストサービスにアクセスするためのユーザー名とパスワードがわかっている。この情報は管理者から提供されます。

時間

このレッスンの完了には、5～10 分見ておいてください。

タスク 1. Informatica Analyst へのログイン

Analyst ツールにログインし、チュートリアルを開始します。

1. Microsoft Internet Explorer または Google Chrome ブラウザを起動します。
2. [アドレス] フィールドに、次に示す Informatica Analyst の URL を入力します。
`http[s]://<fully qualified host name>:<port number>/analyst`
3. ドメインで LDAP またはネイティブ認証を使用する場合、ログインページ用のユーザー名とパスワードを入力します。
4. [ネイティブ] または特定のセキュリティドメインの名前を選択します。
Informatica ドメインで LDAP または Kerberos 認証を使用している場合は、[セキュリティドメイン] フィールドが表示されます。ユーザーアカウントが所属するセキュリティドメインがわからない場合は、Informatica ドメイン管理者に問い合わせてください。
5. [ログイン] をクリックします。
Analyst ツールにより、[開始] ワークスペースが開きます。

タスク 2. プロジェクトの作成

このタスクでは、Analyst ツールで作成したアセットを含むプロジェクトを作成します。プロジェクトのフォルダーを含むようにチュートリアルプロジェクトを作成します。

1. [管理] ヘッダーの [プロジェクト] をクリックします。
[プロジェクト] ワークスペースが表示されます。
2. [アクション] メニューから、[新規] > [プロジェクト] を選択します。
[新規プロジェクト] ウィンドウが表示されます。
3. プロジェクト名として「Tutorial_自分の名前」を入力します。
4. [OK] をクリックします。

タスク 3. フォルダの作成

このタスクでは、関連するアセットを格納するフォルダを作成します。フォルダは、プロジェクトまたは別のフォルダ内に作成することができます。Data Quality プロジェクトに関連するアセットを格納する Customers という名前のフォルダを作成します。

1. **【プロジェクト】** パネルで、チュートリアルプロジェクトを選択します。
2. **【アクション】** メニューから、**【新規】** > **【フォルダ】** をクリックします。
【新しいフォルダ】 ウィンドウが表示されます。
3. フォルダ名に「Customers」を入力します。
4. **【OK】** をクリックします。
フォルダにはチュートリアルプロジェクトの下に表示されます。

Informatica Analyst の設定のまとめ

このレッスンでは、Analyst ツールではプロジェクトおよびフォルダにアセットが格納されることを学習しました。プロジェクトとフォルダはモデルリポジトリに格納されます。Analyst ツールは、アナリストサービスで実行されます。モデルリポジトリサービスでは、モデルリポジトリが管理されます。アナリストサービスとモデルリポジトリサービスは、Informatica ドメイン内のアプリケーションサービスです。

Analyst ツールにログインし、プロジェクトとフォルダを作成しました。

これで、Analyst ツールを使用してこのチュートリアルの他のレッスンを実行できます。

第 3 章

レッスン 2. データオブジェクトの作成

この章では、以下の項目について説明します。

- [データオブジェクトの作成の概要, 11 ページ](#)
- [タスク 1。Customers フラットファイルデータオブジェクトの作成, 12 ページ](#)
- [タスク 2。Accounts フラットファイルデータオブジェクトの作成, 13 ページ](#)
- [タスク 3。Customer_Accounts テーブルデータオブジェクトの作成, 13 ページ](#)
- [タスク 4。データオブジェクトのプレビュー, 14 ページ](#)
- [データオブジェクトの作成のまとめ, 14 ページ](#)

データオブジェクトの作成の概要

Analyst ツールで、データオブジェクトはフラットファイルまたはリレーショナルデータベーステーブルに基づいたデータの表現です。フラットファイルまたはテーブルデータオブジェクトを作成し、そのフラットファイルおよびテーブルデータオブジェクトをマッピング仕様で使用します。

内容

HypoStores の顧客データは、フラットファイルとリレーショナルテーブルに保存されています。HypoStores では、それらのデータを分析し、データ統合タスクを実行する必要があります。

目標

このレッスンでは、以下の作業を完了します。

1. フラットファイルをフラットファイルキャッシュの場所にアップロードし、フラットファイルデータオブジェクトを作成します。
2. ターゲットテーブルデータオブジェクトを Analyst ツールにインポートします。
3. データオブジェクトのデータをプレビューします。

前提条件

このレッスンを開始する前に、次の前提条件を確認してください。

- このチュートリアルレッスン 1 を完了している。
- レッスンで使用するフラットファイルと SQL スクリプトファイルをダウンロードするための MySupport アカウントがある。

- Accounts.txt および Customers.txt フラットファイルがある。Accounts.txt ファイルは [here](#) から、Customers.txt ファイルは [here](#) からダウンロードできます。
- Oracle クライアントがインストールされている（Customer_Accounts ターゲットテーブルデータオブジェクトを作成するため）。
- Oracle データベースに接続している。
- target.sql テーブルがある。このスクリプトは [here](#) からダウンロードできます。Oracle SQL Plus を使用して、ターゲットテーブルを作成する SQL 文を実行します。

時間

このレッスンの所要時間は 10～15 分です。

タスク 1。Customers フラットファイルデータオブジェクトの作成

このタスクでは、**フラットファイルの追加ウィザード**を使用して、Customers.csv からフラットファイルデータオブジェクトを作成します。

1. **【新規】** ヘッダで、**【フラットファイルデータオブジェクト】** をクリックします。
フラットファイルの追加ウィザードが表示されます。
2. **【参照およびアップロード】** を選択し、**【ファイルの選択】** をクリックして Customers.csv の場所を参照します。
3. **【区切り】** オプションはデフォルトのままにします。
4. **【次へ】** をクリックします。
5. **【インポートする行を指定します】** で、**【先頭行からインポート】** を選択してブランク以外の先頭行のカラム名をインポートします。
6. **【表示】** をクリックします。
詳細パネルが更新されて、先頭行のカラムの見出しが表示されます。
7. **【次へ】** をクリックします。
カラム属性パネルに、カラムごとのデータ型、精度、スケール、および形式が表示されます。
8. 以下のカラム属性を編集します。

カラム名	データ型	精度	スケール
CHECKING_BALANCE	Number	38	0
SAVINGS_BALANCE	Number	38	0

9. **【次へ】** をクリックします。
10. **【フォルダー】** パネルで、フラットファイルを追加する Customers フォルダーを選択します。
【フラットファイル】 パネルに、プロジェクトまたはフォルダー内に存在するフラットファイルが表示されます。

11. **【完了】** をクリックします。

Analyst ツールにより、**【データプレビュー】** タブに Customers フラットファイルデータオブジェクトのデータプレビューが表示されます。**【プロパティ】** タブにフラットファイルのプロパティが表示されます。

タスク 2。Accounts フラットファイルデータオブジェクトの作成

このタスクでは、**フラットファイルの追加ウィザード**を使用して、Accounts データファイルからフラットファイルデータオブジェクトを作成します。

1. **【新規】** ヘッダで、**【フラットファイルデータオブジェクト】** をクリックします。
フラットファイルの追加ウィザードが表示されます。
2. **【参照およびアップロード】** を選択し、**【ファイルの選択】** をクリックして Accounts.csv の場所を参照します。
3. **【区切り】** オプションはデフォルトのままにします。
4. **【次へ】** をクリックします。
5. **【インポートする行を指定します】** で、**【先頭行からインポート】** を選択してブランク以外の先頭行の列名をインポートします。
6. **【表示】** をクリックします。
詳細パネルが更新されて、先頭行の列名の見出しが表示されます。
7. **【次へ】** をクリックします。
列属性パネルに、列ごとのデータ型、精度、スケール、および形式が表示されます。
8. **【次へ】** をクリックします。
9. **【フォルダー】** パネルで、フラットファイルを追加する Customers フォルダーを選択します。
【フラットファイル】 パネルに、プロジェクトまたはフォルダー内に存在するフラットファイルが表示されます。
10. **【完了】** をクリックします。
Analyst ツールにより、**【データプレビュー】** タブに Accounts フラットファイルデータオブジェクトのデータプレビューが表示されます。**【プロパティ】** タブにフラットファイルのプロパティが表示されます。

タスク 3。Customer_Accounts テーブルデータオブジェクトの作成

このタスクでは、**テーブルの追加ウィザード**を使用して、プロジェクトにテーブルを追加します。テーブルを追加するには、接続を選択し、スキーマおよびテーブルを選択してテーブルを追加します。

1. **【新規】** ヘッダで、**【テーブルデータオブジェクト】** をクリックします。
新規テーブルウィザードが表示されます。
2. 接続を選択します。
3. Customer_Accounts テーブルを選択します。

4. **【次へ】** をクリックします。
5. **【フォルダー】** パネルで、テーブルを追加する Customers フォルダーを選択します。
【テーブル】 パネルに、プロジェクトまたはフォルダー内に存在するテーブルが表示されます。
6. **【完了】** をクリックします。
Customers フォルダーのフォルダー内容に Customer_Accounts テーブルデータオブジェクトが表示されます。

タスク 4。データオブジェクトのプレビュー

このタスクでは、テーブルおよびフラットファイルデータオブジェクトのデータをプレビューして、データの構造と内容を確認します。

1. **【ライブラリ】** ワークスペースを開き、**【プロジェクト】** パネルを展開して、プロジェクトまたはフォルダーからフラットファイルまたはテーブルデータオブジェクトを選択します。

例えば、チュートリアルプロジェクトの Customers フォルダーから Customers フラットファイルデータオブジェクトを選択します。

Analyst ツールにより、**【データプレビュー】** タブにフラットファイルまたはテーブルのデータプレビューが表示されます。

2. **【プロパティ】** タブをクリックします。

【プロパティ】 パネルに、プロジェクトまたはフォルダー内のフラットファイルデータオブジェクトの名前、タイプ、説明、および場所またはファイルパスが表示されます。**【プロパティ】** パネルに、プロジェクトまたはフォルダー内のテーブルオブジェクトの接続名、データオブジェクトモデル名、テーブル名、およびスキーマ名が表示されます。**【カラム】** パネルで、テーブルおよびフラットファイルのカラムメタデータと、その他のオブジェクトタイプのデータ品質の結果をプレビューできます。

データオブジェクトの作成のまとめ

このレッスンでは、フラットファイルおよびテーブルデータオブジェクトがフラットファイルに基づいたデータの表現であることを学習しました。また、フラットファイルおよびテーブルデータオブジェクトを作成し、その中のデータをプレビューできることを学習しました。

2つのフラットファイルをアップロードし、フラットファイルデータオブジェクトを作成しました。リレーショナルテーブルをインポートし、テーブルデータオブジェクトを作成しました。それらのデータオブジェクトのデータをプレビューし、それらのプロパティを確認しました。

作成したフラットファイルデータオブジェクトは、レッスン3でマッピング仕様のソースとして使用できます。作成したテーブルデータオブジェクトは、レッスン3でマッピング仕様のターゲットとして使用できます。

第 4 章

レッスン 3: マッピング仕様の作成

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピング仕様の概要, 15 ページ](#)
- [タスク 1。マッピング仕様の作成, 16 ページ](#)
- [タスク 2。Customer_Accounts ターゲットの編集, 16 ページ](#)
- [タスク 3。簡易フィルタの追加, 17 ページ](#)
- [タスク 4。ルールを作成, 17 ページ](#)
- [タスク 5。ターゲットへのマッピング仕様の結果のロード, 18 ページ](#)
- [マッピング仕様の作成のまとめ, 18 ページ](#)

マッピング仕様の概要

マッピング仕様は、ソースからターゲットへのデータの移動やトランスフォーメーションについて記述したアセットです。マッピング仕様を使用して、ターゲットテーブルに関するレポートに使用できるデータをターゲットテーブルに取り込むビジネスロジックを定義します。

内容

HypoStores では、金融機関の各支店の残高をターゲットテーブルに取り込むためのビジネスロジックを開発したいと考えています。アナリストであるあなたは、一連の金融商品についてのアクティブな顧客口座の残高データをターゲットテーブルに生成するマッピング仕様を開発します。

目標

このレッスンでは、以下の作業を完了します。

1. 2つのソースと1つのターゲットを設定してマッピング仕様を作成します。
2. マッピング仕様に簡易フィルタを追加します。
3. マッピング仕様にルールを追加します。
4. マッピング仕様の結果をターゲットにロードします。

要件

このレッスンを開始する前に、次の要件を確認してください。

- このチュートリアルレッスン 1 と 2 を完了している。

時間

このレッスンの所要時間は 10～15 分です。

タスク 1。マッピング仕様の作成

このタスクでは、2つのソースと1つのターゲットを設定してマッピング仕様を作成します。ソース間には Normal 結合を指定します。

1. **【デザイン】** ワークスペースの **【新しい資産】** パネルで、**【マッピング仕様】** をクリックします。
【新しいマッピング仕様】 ウィンドウが表示されます。
2. マッピング仕様の名前として「Customer_Data」と入力します。
3. チュートリアルプロジェクト内の Customers フォルダーを選択します。
4. **【次へ】** をクリックします。
5. **【ソース】** パネルで、**【ソースオブジェクトの追加】** アイコンをクリックし、Customers フォルダーから Accounts ソースと Customers ソースを選択します。
チェックボックスを使用して両方のソースを選択します。
6. **【OK】** をクリックします。
7. **【次へ】** をクリックします。
8. **【結合】** パネルで、**【新しい結合】** アイコンをクリックして結合を作成し、編集オプションを選択して結合を設定します。
9. **【名前】** フィールドに、「CustomerData」と入力します。
10. **【結合タイプ】** フィールドで、デフォルトの **【ノーマル】** を受け入れます。
11. Accounts をマスタテーブルとして、Customers を明細テーブルとして選択します。
12. **【簡易結合】** を選択します。
13. **【結合条件】** パネルで、結合条件を変更して、金融商品を購入した顧客アカウントを表示します。
以下の結合条件を指定します。
 - マスターカラム名。ACCOUNTS.ACCOUNT_CUSTOMER カラムを選択します。
 - 演算子。"="演算子を選択します。
 - 明細カラム名。CUSTOMERS.CUSTOMER カラムを選択します。
14. **【OK】** をクリックします。
15. **【次へ】** をクリックします。
16. **【ターゲットオブジェクト】** パネルで、Customer_Accounts テーブルデータオブジェクトを選択します。
17. **【完了】** をクリックします。
【カラムのマッピング】 タブに Customer_Data マッピング仕様が開かれます。

タスク 2。Customer_Accounts ターゲットの編集

このタスクでは、カラム名に基づいてマッピング仕様にソースカラムとターゲットカラムをマップします。

1. **【アクション】** メニューで、**【自動マップカラム】** アイコンをクリックします。
【自動マップ】 ウィンドウが表示されます。
2. デフォルトの **【簡易】** オプションを受け入れます。
3. **【カラム名で自動マップ】** を選択します。
4. **【保存】** をクリックします。

Analyst ツールによって、[トランスフォーメーションとターゲットカラム] パネル上で名前別にカラムがマップされます。

5. マッピング仕様を検証するために、[アクション] メニューで [マッピング仕様の検証] をクリックします。

Analyst ツールにマッピング仕様が有効であることを示すメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

タスク 3。簡易フィルタの追加

このタスクでは、マッピング仕様に簡易フィルタを追加して、無効になった Bronze ステータスの "B" アカウントを非表示にします。

1. [カラムのマッピング] タブで、[アクション] > [編集] > [フィルタ] をクリックします。
[マッピング仕様の編集] ウィンドウが表示されます。
2. [新規フィルタ] アイコンをクリックします。
[新規フィルタ] ウィンドウが表示されます。
3. デフォルトの [簡易] フィルタを受け入れます。
4. [条件] パネルで、次のフィルタ条件を設定します。
`ACCOUNTS.ACCOUNTS_TYPE != B`
5. [更新] をクリックして、データをプレビューします。
6. [OK] をクリックします。
7. [保存] をクリックします。
8. マッピング仕様を検証するために、[アクション] メニューで [マッピング仕様の検証] をクリックします。
Analyst ツールにマッピング仕様が有効であることを示すメッセージが表示されます。
9. [OK] をクリックします。

タスク 4。ルールの作成

このタスクでは、15 パーセント増加した当座預金と普通預金の合計残高を計算するルールを作成します。

1. [カラムのマッピング] タブで、[アクション] > [編集] > [ルール] をクリックします。
[マッピング仕様の編集] ウィンドウが表示されます。
2. [新しいルール] アイコンを選択します。
[新しいルール] ウィンドウが表示されます。
3. [ルールの作成] を選択します。
4. [次へ] をクリックします。
5. ルール名として「CurrentBalance」と入力します。
6. [ターゲットカラム名] で、CURRENT_BALANCE ターゲットカラムを選択します。

7. 式エディタで次の式を入力します。
(CUSTOMERS.CHECKING_BALANCE+CUSTOMERS.SAVINGS_BALANCE)*1.15
8. **【検証】** アイコンをクリックして、式を検証します。
Analyst ツールに式が有効であることを示すメッセージが表示されます。
9. **【OK】** をクリックします。
10. **【完了】** をクリックします。
11. **【保存】** をクリックします。

タスク 5。ターゲットへのマッピング仕様の結果のロード

このタスクでは、マッピング仕様の結果をモデルリポジトリの Customer_Accounts ターゲットテーブルにロードします。Customer_Accounts ターゲットの構造とプロパティは、マッピング仕様のターゲットと同じです。

1. **【アクション】** メニューで、**【エクスポート】** をクリックします。
【エクスポート】 ウィンドウが表示されます。
2. **【テーブル】** を選択します。
3. **【次へ】** をクリックします。
実行されるマッピング仕様の名前は Customer_Data です。
4. **【次へ】** をクリックします。
5. **【ターゲットオブジェクト】** パネルで、CUSTOMER_ACCOUNTS ターゲットを選択します。
6. **【完了】** をクリックします。
Analyst ツールに、**【ジョブステータス】** タブのリンクをクリックしてマッピング仕様の実行を監視できることを示すメッセージが表示されます。

マッピング仕様の作成のまとめ

このレッスンでは、マッピング仕様を作成して、ターゲットテーブルにデータを取り込むことができるビジネスロジックの開発について学習しました。

2つのソースを設定してマッピング仕様を作成しました。マッピング仕様を作成する際、ソース間の Normal 結合を実行しました。ターゲットを編集してソースカラムをターゲットカラムにマップし、ターゲットに新しい行を追加して新しいカラムのカラムプロパティを定義しました。行の名前をターゲットテーブルカラムと同じ名前に変更しました。ターゲットカラムに簡易フィルタを追加しました。別のターゲットカラムのルールを作成しました。開発サイクルでマッピング仕様の検証も行いました。最後に、マッピング仕様の結果をターゲットデータオブジェクトにロードしました。

索引

A

Analyst ツールの設定
概要 [8](#)